

ル儘戰場ニ送り出スガ如キハ統帥ノ誤リナルヲ銘肝ゼズンバアンス

五大本營ノ海上挺進部隊使用企圖

(一) 運用ノ方針

敵ノ上陸豫想正面ニ隱密ニ直接配備シ敵ノ上陸開始ニ先チ不意且急襲的ニ一擧大量ヲ使用シ以テ敵輸送船團ヲ海上ニ撃滅ス之カ爲泊地ニ在ル大型輸送船ヲ主目標トス

(二) 部隊ノ配置

(1) 昭和十九年末迄ノ期間

比島ニ對スル敵ノ本格的の上陸ハ二十年初頭頃ト判断シ整備シ得タル海上挺進部隊ノ全力ヲ年末迄ニ「ルソン」島ニ展開スベク企圖シ後半ニ至リ逐次推進展開ニ著手セルモ敵ノ「レイテ」上陸ニ會シ資材ノ整備、要員ノ訓練竝ニ輸送船腹ノ制扼ヲ受ケ一部ヲ「ルソン」島ニ推遷セシメ得タルニ過ギズ大部ハ止ムヲ得ズ臺灣ニ殘置シ同方面ノ作戰ニ充當スルコトトセリ

(2) 昭和二十年前半期

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

比島ノ失陷ニ伴ヒ敵ノ次期上陸目標ヲ沖繩諸島ト判断シ二十年
初頭ヨリ國內ニ於テ整備セル部隊ノ大部ヲ沖繩ニ展開ス
(5) 昭和二十年後半期

沖繩失陷後本土決戰準備トシテ海上挺進部隊ノ主力ヲ關東及九
州方面ニ重點的ニ配置スベク企圖セルモ資材整備ノ關係上殆ド
配置スルコトナク終戰ニ至ル

(三) 陸海軍ノ關係

海上挺進部隊ノ使用ニ關シテハ本土決戰準備ニ於テ之カ運用ニ就
キ協定シ相互協同作戰スルコトニ決ス

資材ノ整備、要員ノ訓練等ハ陸海軍獨自ニ實施セリ

(四) 企圖ノ秘匿

海上挺進部隊ノ使用舟艇ノ性能ニ鑑ミ絶對ニ企圖秘匿ヲ要シ資材
ノ整備、要員ノ訓練、部隊ノ展開、現地ニ於ケル秘匿作業等全般
ニ亘リ特ニ留意セリ 之カ爲訓練不十分ナル部隊ヲ作戰地ニ推進

セルモ之カ現地訓練ハ極力之ヲ抑制セリ

(五) 使用開始ノ時機

挺進部隊ノ効果ハ其ノ第一次作戰ノミニ限定セララルヲ以テ大本
營トシテ全般ノ作戰ヲ考慮シ之カ使用開始ノ時機ハ現地軍司令官
ノ獨斷ニ委スルコトナク大本營ヨリ指示スルコトトセリ

六 海上挺進部隊ノ作戰

海上挺進部隊ノ通信裝備、指揮機關ノ不備、展開ニ伴フ輸送ノ不規
等ニ備セラレ中央ハ勿論現地軍トシテモ之カ掌握極メテ不十分ニシ
テ且豫想ニ反シ敵ノ上陸時機モ早期ナリシ爲現地軍ノ該部隊作戰計
畫及作戰ノ實施ニ關シテハ資料不十分ナルヲ以テ之カ大要ヲ記述ス
(一) 比島ニ於ケル海上挺進作戰

(1) 昭和十九年十月末頃比島方面最高指揮官ノ意見具申ニ基キ大本
營ハ爾後同方面作戰ノ爲海上挺進部隊ノ使用ヲ認可ス

(2) 比島ニ於ケル配置



頭初配置ノ重點ハ「ルソン」島東海岸「レガスビー」地區及同島南海岸「バタングス」正面トシ逐次展開中ナリシモ敵情判斷ノ變化ニ伴ヒ之カ重點ヲ「リソングエン」灣方面ニ變更シ之ニ應ズル如ク展開中同方面ニ敵ノ上陸ヲ見ルニ至レリ

- 其ノ配置概要左ノ如シ
- 「リソングエン」 二隊
 - 「マニラ」灣 三隊
 - 「バタングス」 六隊
 - 「ラモン」灣 四隊
 - 「レガスビー」 二隊

而シテ一般ニ内地ヨリノ海上船舶輸送遲レ且船隊堅牢ヲ缺キ爲ニ損害多ク一五隊一五〇〇隻ノ豫定中到着セルハ其ノ半ニモ還セザリキ

(3) 作戰ノ實施

敵ノ上陸開始前ニ於ケル爆撃ニ依リ海岸ニ配置セル舟艇ハ殆ド破壊サレタルモノノ如ク只米重上陸ニ際シ「ナスグブ」「リソ

ガエン」「インフアター」等ニ於テハ挺進部隊ハ該船團ニ突入セルモノノ如ク相當ノ效果ヲ擧ゲタルモノノ如キモ其ノ戰果ノ詳細ハ不明ナリ

(二) 沖繩ニ於ケル海上挺進作戰

(1) 沖繩ニ於ケル配置

敵ノ主上陸正面ヲ沖繩本島西及南海面ト判斷シ在沖繩挺進部隊ノ約半部ヲ沖繩本島ノ西側慶良間群島ニ殘部ヲ沖繩本島南部海岸ニ配置ス

(2) 作戰ノ實施

敵ノ上陸開始ニ伴ヒ我が航空ノ特攻攻撃ト呼應シ敵船團ヲ攻撃セルモ大部ハ敵ノ上陸開始前ノ爆撃ノ爲損耗セルモノノ如ク戦果ハ不明ナリ



沖繩作戰海上挺進戰隊記錄

海上特攻戰法ハ沖繩ニ於テハ航空作戰地上作戰ト共ニ空、海、陸戰力
綜合發揮ヲ主眼トシ編制、訓練、配備セラレタリシモノリシガエン
ニ於ケル該兵種ノ使用ハ既ニ奇、急襲部隊トシテノ價值ヲ失ヒ多大ノ
戰果ヲ期待セシニ拘ラス實質的効果ハ少カリキ

第一 海上作戰構想ノ概要竝ニ戰力

海上挺進作戰ハ空、陸作戰ト呼應シ其ノ綜合戰力發揮ヲ考慮セシハ勿
論ナルモ海上戰力自身モ單一ニ全戰力ヲ統合スルコトニ著意セラレタ
リ即チ敵ノ上陸豫想ヲ左ノ如ク豫定シ之ニ應スル如ク配置セララルト
共ニ其ノ航續力ヲ利用シ一方面ニ集中攻撃スル如ク戰策ヲ決定準備セ
ラレタリ

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

豫想上陸方面	配置箇所						部隊	戦力
	北中飛行場	糸満海岸	間渡嘉敷	良阿嘉	座間味	慶		
北中飛行場						1F	九六	
糸満海岸			3F	2F			九八	
中域湾並	與那原		26F				八〇	
湊川海岸	湊川		28F				九六	
北中飛行場並糸満海岸	北谷		29F				一九	
計							五八四	

140

而シテ運用ハ全一主一方向同時使用ヲ主トシテ訓練準備セラレ少数兵力ヲ以テ奇襲スルコトニ關シテハ深ク考慮セラレアラザリキ
又基地部隊ハ各戦隊配置ニ隨ヒ且陸上戦闘参加ヲモ考慮セラレ船舶部隊ト共ニ特設旅團ヲ編成セリ

第二 慶良間ノ戦闘

三月二十三日沖繩方面ニ對スル空襲開始セラレ二十四日本島ニ對シ艦砲射撃開始セララル

三月二十五日ニ至ルヤ敵ハ慶良間ニ對シ奇襲上陸ヲ行ヒ所在部隊ハ海上作戦ノ邊ナク直チニ陸上戦闘ニ移行シ須臾ニシテ破摧セラルル其ノ状況次ノ如シ

ノ二十五日〇七三〇阿嘉島及渡嘉敷島ニ對シLST約一〇〇ヲ以テ上陸開始。座間味ニモ上陸ス所在部隊ハ陸上ニ邀撃ス
夕刻ニ至ルヤ渡嘉敷島ニ於テハ之ヲ擊退セルカ如シ

2軍ハ慶良間方面ノ戦闘ヲ艦船部隊長ヲシテ統一指導セシムルト共ニ

終

三

2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32

那覇方面ニ轉移スル如ク命ジタルモ戰況前項ノ如ク一部ヲ除キ大部
ハ轉進不能ナリキ

二十六日一六〇〇慶良間方面トノ通信杜絶セルモ二十七日同方面
於テ砲聲依然激烈ニシテ尙取圍中ナルモノノ如シ

後日割舟ヲ以テ軍ニ連絡セル者ノ言ヲ綜合スルニ一部ハ山間ニ退避
シアリシガ如ク軍ハ之ニ對シ無線ヲ派遣シ爾後該方面ノ敵情搜索據
點ニ當ラシメタリ

第三

敵ハ我ガ海上作戦ニ對スル考慮竝ニ對策甚ダ嚴ニシテ「スカンタ」
基地攻撃ト稱シ艦砲、爆撃ヲ以テ破摧砲撃ヲ行フコト極メテ熾烈
ナリ又海上ニ挺進スル舟艇發動機音ヲ巧ニ捕捉シ之ヲ砲撃破摧スルニ
努メ戦力統一使用ハ頗ル困難ニシテ「ゲリラ」的運用ノ止ムナキニ至
ル
爾後ノ攻撃状況次ノ如シ

月日	時刻	戦隊	戦力	攻撃方面	戦果
----	----	----	----	------	----

終り

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

爾後ノ攻撃狀況次ノ如シ
 努メ戦力統一使用ハ頗ル困難ニシテ「ゲリラ」的運用ノ止ムナキニ至ル

月日	時刻	戦隊	戦力	攻撃方面	戦果
29/3	0348	2950	17	北谷西方 艦船	撃沈中型一 撃破不詳二
8/4	2400		37	糸満ヨリ 嘉手納泊地	撃沈D一 魚二 火柱三
15/4	2200以降	26	22	嘉手納 西方海面	那覇ヨリ神山島 シメニ二名歸還 撃沈D一 不詳 炎上不詳 火柱六
27/4			13		撃沈 大型輸送船 D
3/5		27F	13	中城湾	沈没 LST T W D 火柱六
28/3					綜合戦果 沈 LST T W D C 舟艇一 不詳一 火柱一四 撃破 T W D 二二
12/5			4	嘉手納沖	炎上不詳 火柱二

第四 五月四日總攻撃ニ於ケル挺進攻撃

海上挺進隊（約一〇〇）ハ東西兩海岸ヨリ列舟及「ソート」線徒渉ニ依リ夫々津瀬及大山以北ニ主力軍攻撃ニ先立テ滑入上陸シ敵後方地區ノ擾亂攻撃ヲ實施シ該部隊ハ晝間ハ舊我カ陣地ニ據リ夜間ハ附近敵部隊ニ斬込ヲ實施スル等果敢ナル戦闘ヲ實施シアリシカ主力ノ攻撃中止ニ依リ遂ニ全員玉碎スルニ至レリ